

## 新規採用・削除医薬品等通知

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	ヒフデュラ配合皮下注	劇・生物 市販直後調査 2024年4月～2024年10月
(英名)	Efgartigimod Alfa (Genetical Recombination)/Vorhyaluronidase Alfa (Genetical Recombination)	
(規格・含有量)	1バイアル(5.6mL)中 エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)として1,008mg/ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)として11,200単位 を含有	
(一般名)	エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)/ ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	
(メーカー名)	アルジェニクスジャパン	
【薬価収載日】	2024年4月	
【薬価】	1瓶 604,569円	
【薬効コード】	6399	
【薬効分類名】	抗FcRn抗体フラグメント・ヒアルロン酸分解酵素配合製剤	
【効能・効果】	全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る)	
【用法・用量】	通常、成人には本剤1回5.6mL(エフガルチギモド アルファ(遺伝子組換え)として1,008mg及びボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)として11,200単位)を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。	

(薬品名)	マドパー配合錠 L50	2024年10月1日オーダ開始予定
(英名)	Levodopa/Benserazide Hydrochloride	
(規格・含有量)	1錠中 日局レボドパ 50mg/日局ベンセラジド塩酸塩 14.25mg(ベンセラジドとして12.5mg) を含有	
(一般名)	レボドパ/ベンセラジド塩酸塩	
(メーカー名)	太陽ファルマ	
【薬価収載日】	2024年6月	
【薬価】	1錠 12.40円	
【薬効コード】	1169	
【薬効分類名】	パーキンソニズム治療剤	
【効能・効果】	パーキンソン病・パーキンソン症候群	
【用法・用量】	レボドパ未投与例の場合： 通常成人は初回1日量2～6錠を1～3回に分けて、食後に経口投与し、2～3日毎に1日量2～4錠ずつ漸増し、維持量として1日6～12錠を経口投与する。 レボドパ投与例の場合： 通常成人初回1日量は投与中のレボドパ量の約1/5に相当するレボドパ量(本剤2錠中レボドパ100mg含有)に切り換え、1～3回に分けて、食後に経口投与し、漸増もしくは漸減し、維持量として1日量6～12錠を経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	

詳細は添付文書等をご参照ください。

## 削除医薬品通知

ラジレス錠 150mg

9/3 削除

## 販売中止による医薬品変更通知

変更後	変更前
● <u>在庫消尽後変更</u> アロフト錠 20mg	アフロクアロン錠 20mg「サワイ」

## 販売名称変更通知

変更後	変更前
● <u>10月1日より変更</u> マドパー配合錠 L100	マドパー配合錠

## 出荷停止により今後欠品となる薬品

テトラミド錠 10mg  
パルクス注ディスポ 10 $\mu$ g

## 供給不足により今後欠品の恐れがある薬品

タンニン酸アルブミン「VTRS」  
フロセミド細粒 4%「EMEC」

## 適応追加通知

キイトルーダ点滴静注  
100mg

### 【効能・効果】

- 悪性黒色腫
- 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌
- 非小細胞肺癌における術前・術後補助療法
- 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫
- がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌
- がん化学療法後に増悪した進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する固形癌 (標準的な治療が困難な場合に限る)
- 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌
- 腎細胞癌における術後補助療法
- 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌
- 根治切除不能な進行・再発の食道癌
- 治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する結腸・直腸癌
- PD-L1 陽性のホルモン受容体陰性かつ HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌
- ホルモン受容体陰性かつ HER2 陰性で再発高リスクの乳癌における術前・術後薬物療法
- がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の子宮体癌
- がん化学療法後に増悪した高い腫瘍遺伝子変異量 (TMBHigh) を有する進行・再発の固形癌 (標準的な治療が困難な場合に限る)
- 進行又は再発の子宮頸癌
- 再発又は難治性の原発性縦隔大細胞型 B 細胞リンパ腫
- 治癒切除不能な進行・再発の胃癌
- 治癒切除不能な胆道癌

### 【用法・用量】

#### 〈非小細胞肺癌における術前・術後補助療法〉

術前補助療法では、他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人には、ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) として、1 回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。その後、術後補助療法では、ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) として、1 回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。投与回数は、3 週間間隔投与の場合、術前補助療法は 4 回まで、術後補助療法は 13 回まで、6 週間間隔投与の場合、術前補助療法は 2 回まで、術後補助療法は 7 回までとする。

〈他〉省略

<p>ペムトレキセド点滴静注用 100mg「NK」</p>	<p>【効能・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○悪性胸膜中皮腫</li> </ul>
<p>ペムトレキセド点滴静注用 800mg「NK」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌</li> <li>○扁平上皮癌を除く非小細胞肺癌における術前補助療法</li> </ul>
	<p>【用法・用量】</p> <p>〈扁平上皮癌を除く非小細胞肺癌における術前補助療法〉</p> <p>他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはペムトレキセドとして、1日1回 500mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を10分間かけて点滴静注し、少なくとも20日間休薬する。これを1コースとし、最大4コース投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>〈他〉省略</p>